

老子より

孟子と同様に「中国の思想」シリーズから項目を抜粋しながら、理解を進めていく。

【七十章】『いかなる理論にせよ、それぞれに基本原理を持つ』

：数学・理科に当てはめると分かり易い。小学生の「単位量あたりの大きさ」「割合」「小数の倍」は教科書を見るとそれぞれ異なる解き方が示されているのだが、一つひとつを追いかけると頭が混乱してしまう。それよりも、まずは「の」掛け算、は「イコール」を使って言葉を式に置き換えることで、ワンパターンの解法で決着をつけることが出来る。高校数学であれば、三角関数の加法定理を覚えておけばそこから多くの公式が自力で導き出せるのと同様だ。アレやコレやとバラバラにたくさん公式を丸暗記しなくても、基本原理を押さえておけば自力で応用をきかせて、枝葉を広げて自分で各種の公式を導くことが出来るようになる。勉強に限ったことではないが、目の前の森羅万象の現象の奥に流れているもの（基本原理）。これを見つめる目を養いたいものである。

【七一章】『知の限界を悟るのが真の知であり知の限界を覚らぬのは迷妄である』

：知識を広げることは大切で、何事も知らないよりは知っておくに越したことはない。しかし、知っているからといってそれが偉い訳ではない。「俺は知っている。お前は知らないのか。お前阿呆だな」のようなことではいけない。知識は一つの方便（道具）に過ぎなく、それを使って何を考え、どう行動するかが肝要なのである。私たちが学ぶ（勉強する）目的を書いてみたい。勉強をすることで私たちの知らなかった世界を知り、古今東西の知識と智慧を学ぶ。そして実生活では何事にも「観察」することを怠らずに、社会がどういうものなのか、自分は何をすべきなのかを考え続ける。これを「洞察」と言う。知識としての学びと、日常の観察力・洞察力をリンクさせることを心がけていくうちに、よりよい生き方、正しい生き方というものがあるとすれば、その正しい生き方を目指す。これが「自分を磨く」ということである。だから単に知識だけをかき集めても不毛であり、その先に人間の向上は無い。だから「知」には限界があり、あれを知っている、これを知っている、何を覚えている、ということだけを自慢するのは迷妄だと老子は喝破しているのだ。

最後に、第八十一章。これは徳間書店刊の「中国の思想」からそのまま抜粋してみる。声に出して読んでみたい。

『真実を語る言葉は、飾り気がない。飾った言葉は、真実を語らない。行いが正しい者の口は、雄弁ではない。雄弁な者は、行いが正しくない。真の知者は、もの知りではない。もの知りは、真の知者ではない。聖人は、自己のために徳を積むわけではない。ひとのためにすべてを捧げつくすが、そのことによってかえって限りなく豊かな境地を得るのだ。天の道は、万物を利するばかりで、これをそこなうことがない。これと同じく、聖人の道は、ひとにつくすだけで、自己を主張することがないのである』

（以上「中国の思想」老子（徳間書店）

こうとくにんげん塾



情報過多の時代、流れゆく世の中。何が大切で、何を土台に自分の心を保ち、どう考え、どう動くか。日常を豊かに生きるためのこころの学びの時間です。

◎毎月第1・3日曜日 午前11時から午後1時
◎参加無料、終了後は希望者のみ昼食を用意（要実費）

お問合せ：鴻徳神社社務所 TEL 047-444-6750
<http://www.kotoku-jinja.jp>



神尾塾通信 特別編

2013年の過去記事から抜粋しました。

個別指導の肝

指導上最も大切なことは、勉強に對して生徒に「逃げ場を作らせないこと」と「当事者意識を植え付けること」に尽きる。

学力上位の層を除いて集団形式の授業は疲弊してき

ている。採算性と合理性を考えると改革は一筋縄ではいかないが、現行システムでは救われないまま埋もれてしまう生徒も量産している。学校も色々システムを見直した方が良いのではないかと、いうことに気づき始めている人も少なくない。ある年代までは「個人は全体に合わせる」という意識が強かった。皆がクラスの授業に向かう姿勢が出来ていたように思う。しかし社会全体として個別化、志向の多様化、個人主義的な考え方が普及していくに従って、全体で行動するという考え方に無理が生じてきた。私が以前他塾で集団授業を行っていた際に「自分は授業には関係ありませんよ？」のような表情をして教室に座っている、心ここにあらずの生徒が増えるようになっていた。これは甘ったれといえれば甘ったれなのだが、このような他人感覚の強い生徒は世の中の動きに関心を持たな

いし、同時に学力も低い。そういう生徒が世間が増えてくれば、社会全体の地盤沈下も避けられない。

そこで、私に出来ることとして最適な指導法は何だろうかというのを開塾以来考え続けてきた。それは「生徒本人が頭と手を動かさないと先に進まない授業」英語ならば「自分で辞書を調べたり和訳をしないと先に進まない授業」という風に依存心を作らず、自分に出来る自助努力を最大限に引き出す指導法という結論に至った。ボタンを押せば授業が出てくる自動販売機のような授業の垂れ流しはしない。

これは生半可な素人が真似できる指導法ではなく、経験と見識を要するプロの指導法ということになるのだが、他人事感覚から抜け出して、いかに当事者意識を育ませるか。これが個別指導の肝ということになるだろう。(十月三十一日)

入塾は性格改造

入塾して大体半年未満の生徒に見られることだが、問題を解きながら「ハア、ハア」とため息をつく生徒がいる。恐らく本人は自覚がないだろうが、ため息を聞くと、本人は「ああ、この子はこれまで

の人生でここまで負荷を掛けられたことがないのだろう」という思いを持つ。一般的に新しい生徒が入塾後、数回の慣らし運転を経て、徐々に授業時間と宿題

量とその生徒に見合った適正の量に増やしていくのだが、入塾した成果を着実に出させるためにも一定の負荷を掛けていくことになる。当然、宿題忘れ、解き残しは許さないし、字を丁寧に書くなど、真摯にその課題に向き合うよう訓練していくことになる。そうして「当たり前前のこと」を「当たり前前に出来る」生徒になるように仕向けていく。

また、授業態度に関しては生徒が誠実な態度であれば、私も同じ目線に立って温和に接するし、逆に方が一生徒が少しでも不遜な(生意気な、ふてくされた)態度をとつたら、私も同じ態度で返す。ムラのある精神状態、続かない根気といったものは徹底してねじ伏せていく。

勉強のつまずきは精査しなければならぬ原因による場合も勿論あるので一概に語ることは出来ず、あくまでも個々に応じて対応していくことになる。ただ、多くの場合において幼少時から家庭などで毅然とした取り組みが行われていればここまで状況は悪化しなかつただろうと思える場合も少なくない。それは家庭ごとの「差」を感じさせることではある。何はともあれ入塾イコール「性格改造」ということは事実だ。(五月三十日)

R君

R君は昨年の四月に指導を開始した。彼は事情により小六から中三まで不登校

が続いた。指導開始時は中三になっていたが勉強面は手付かずの状態。小二算数のたし算・ひき算と九九、英語はアルファベットの書き方から始めた。小六で勉強を止めた場合、小六の学力が維持されるのではなく、時間の経過と共に学力が退化していくことがよく分かった。

指導を開始して一ヶ月経った五月頃、R君に「塾に行きたくない」という気持ちが生じ、私は船橋市内の自宅まで迎えに行った。ここで大人が筋を通さねば彼の殻からの脱出が総崩れになってしまうと考えたからである。R君に過大なストレスを与えないことを気にしつつ極めて慎重にまずは夏を乗り越えようとした。R君はもともと学習の吸収が速い。学校に通えていれば相当学年順位も高かっただろうと思う。くもん式の小学ドリルを終え、中一内容、中二内容と次第に波に乗るように学力が上回ってきた。

限られた塾の授業時間の中で、小学校から中学校までを取り返すことは容易でない。出来るだけ無駄をせぬよう、最短距離で各分野のエッセンスを学習させることに集中した。もちろん、R君自身の『踏ん張り』『努力』こそが相乗効果となつてメキメキと上昇していったように思う。R君の表情、動きも次第に軽くなったように見受けられた。私にとつても大きなやりがいをR君の指導に見出すことが出来た。次はどこまでいけるのか、

私自身がワクワクしていた。ご家庭の、「どうかしたい」「なんとかしたい」という必死さと熱い想い、R君自身の「地道な努力」。私もメンタル面、学習面双方に力を注いだ。この三者間連携があつてこそだつたと思う。少なくとも数学と英語については県立高校の入試問題を平均点以上にこなせる段階までこぎつけて、N高校に無事合格した。R君のお母様から頂いたメールを紹介する。

~~~~~


：先生に聞いて頂きたくメールをさせて頂きました。昨日の朝食時に何気ない会話から勉強の話が出たのですが、そしてたらRが突然「もつと早く勉強しとけば良かった。もつと勉強が出来ないようになりたかった。勉強って出来ないよりは出来るにこした事は無い。頭が良くて損はないよね。今までは思った事が無かつたけど、今は凄くそう思う」「先生と出会ったからじゃない？」と私の言葉にRは「そうだよ」と。Rの口からそんな言葉が出るなんて大変びっくりしました。嬉しくてたまりませんでした。「まだ遅くないよ。これからでも取り戻せるよ」そう答えるのが精一杯でした。この九ヶ月の間で、Rは驚くほど変わりました。人間が失いかけた自信を取り戻す、また自信を持つというのは凄く大事なんだなと改めて感じました。すみません、それだけの事だつたのですが嬉しくて先生に聞

いて欲しかったのです。Rが不登校になつてから、他の方が聞いたたらそんなことと思うような事でも、ちよつとした言葉や行動が、私には嬉しくてたまらない事なのです。有り難うございます。

~~~~~

ありのままを記したいと思ひ手前味噌とは思ひながらも掲載させて頂いた。私は他の大手塾、他の学習塾に出来ない仕事を神尾塾でしたいと考えている。学校を含め大勢の中で埋もれてしまった子、でもその中に光輝く原石を持つてている子は確実にいるので、そういう子と一人でも多く出会い、その子を引き出すための助力になる塾でありたいと熱望している。(二月二十一日)

- 学力不振を解消したい中学生
- 数学の苦手を克服したい高校生
- 偏差値25からの中学受験
- 不登校・その他事情をお持ちの方



小・中・高
1対1
個別指導

本気の生徒を本気で伸ばす

学力が伸び悩み、進路の行き詰まりを感じているご家庭、でも「どうかしたい」と本気で打開したいとお考えの方へ

★鎌ヶ谷・白井のほか電車通塾者も複数

まずは
ご相談

自己肯定力を育む

047-444-6750
鎌ヶ谷市東初富1-10-28
鴻徳神社社務所内

kotoku-jinja.jp/kamiojuku

詳細はホームページ

➔

神尾塾 鎌ヶ谷

検索